

2017. 6. 15 (木)

社会について、そして自分について知るために

長 松 奈美江

社会のことを知りたいから大学に来た

今日は「大学って何だろう？」というテーマをめぐるお話をしたいと思います。皆さんにとって、大学はどのようなところでしょうか。それぞれに、大学に対する思いがあると思います。私は、皆さんよりも長く大学にいます。18歳の頃から大学にいますので、かれこれ20年もいることとなります。数年前に、アメリカとイギリスの大学に2年間滞在したのですが、それを含めて、大学は私にとって、いつも新鮮な出会いがあるところです。今日も、こうやって皆さんと出会っているわけですが、私は大学で、毎年、新しい人に会います。新しい関係を築いて、その関係をつないでいくことができる、そんなすてきな場所だなと思っています。

私は、主に1年生を対象にした社会調査の授業を担当しています。毎回、授業後にコメントシートを書いてもらうのですが、先日、このようなコメントをもらいました。「自分が立てた仮説とは異なった結果が出て、それをなぜだと追求することは面白そうだなと思った。それで社会を知ることによって、自分がどれほど社会についての知識がないか、足りないかを思い知ることができると思う。そこから、また疑問が出てくる、そう

いうサイクルが面白い」。このコメントを読んで、私は昔のことを思い出しました。私が大学に行きたいと思った理由は、社会のことを全く知らなかったからです。知らないから、もっともっと知りたいなと思ったから、大学に行きました。

大学で学び、社会のことを少し知ることができました。でも、このコメントにあるように、知れば知るほど、新しい疑問が湧いてくるのです。何かを知れば知るほど、自分が本当に知らないということが分かったので、もっと知ろうと思って大学院に行きました。

今は、前よりはずっと社会について分かるようになりました。でも、まだまだ分からないことがたくさんあります。例えば先週末は、仲間との研究会がありました。その研究会では、日本に住む外国人を対象にした調査を企画しています。どのように調査をするのか、何を聞かかを話し合い、調査票を作成するための研究会でした。調査をするので、いろいろと勉強しています。でも、調べれば調べるほど、日本に住む外国人について知らないと思うわけです。彼らが日本にいて、どんな経験をしていて、何を感じているのか、どんなふうに通っているのか、そういうことを知らない、分からない。だから、調査をしたいと思っています。

「社会を知ること」は「自分を知ること」

では、社会を知るといことは、どういうことでしょうか。私は、社会を知るといことは、自分を知ることだなと思っています。自分がなぜここにいて、今、なぜこのようなことを考えているのか、感じているのか。日本で生まれて、あるいは日本に来て住んでいる私たちは、どんな人生を生きているのか。私は幸せだなと思うのですけれども、なぜ私は幸せなのか。不幸せだったら、なぜ不幸せなのか。社会について知ることは、こういった自分の立ち位置について知ることかなと思っています。

私は大分県の出身で、大学に進学するために関西に出てきました。大学卒業後は、先ほども言ったように、大学院に進んで勉強を続けました。それで、すごく幸運にも、こうやって大学に職を得ることができて、今こうやって、皆様の前でお話をさせていただいています。私は、大学という場が大好きです。新しいことを知るのとはとても楽しいし、自分の研究とか教育の仕事がとても好きなのです。でも、ふと思うことがあるのです。私が、もし大学に行けなかったら、どうなっていたのかな、と。どこに住んでいたのかな、どんな仕事をしているのかな、と。大学院に行けなかったら、どうなっていたのかな、と。皆さんはなぜ、大学に進学することができたと思いますか？もちろん、皆さん頑張って勉強したからです。でも、私や皆さんが大学に進学することができたということは、社会の要因によって影響を受けていると思います。

私には、勉強することを許してくれた両親がいます。お金を出してくれてサポートしてくれて、そして今は、私が大分に帰らなくて

も許してくれる両親がいます。そういう両親には、彼らの考え方に影響を与えた祖父母がいます。そして、私が大学に行った時代ということも影響を与えています。私は、幸運にも不況が深刻化する前に幼少期を過ごすことができました。以前、両親に「今の時代だったら、おまえを大学に行かせることはできなかっただろう。不況で、会社の経営も厳しいし」と言われました。それを聞いて、私はとても恐ろしくなりました。つまり、今言ったような、こういう条件がなければ、私は今ここにはいないわけです。

大学に行くとき、私が知りたいなと思ったのは、なぜ、私はここに、このようにして生きているかということでした。そして、どのようにして、社会のことを自分のこととして考えて生きていけばいいのか、そのようなことを知りたいなと、今でも思っています。私の研究テーマは、社会における不平等です。社会は不平等だなと思ったのは、大学に入ってからです。大学に入って、いろいろなところに行って、いろいろな人と出会って、話をして、社会が不平等だということに気がきました。日本における、そして、世界における圧倒的な不平等を前にして、それにどのように納得して生きていけばいいのか、そんな個人的な関心に導かれて、今でも日々、大学で学んでいます。

大学で勉強することの意味を考える

皆さんにとって、大学はどういう場所でしょうか。きっと、それぞれの人にそれぞれの答えがあると思います。大学が勉強する場所であるというのは間違いないと思います。でも、その勉強するということを意味付けるの

は皆さん方だと思います。

今は、有効求人倍率が高くて、人不足の時代と言われています。ただし、大学生が就職することが難しい、働くことは大変だと言われて久しいです。なので、今は何をすることも、「就職のため」というのが重視される時代になっています。皆さんに勉強してもらうことが私の役割なので、私は学生に「勉強しなさい」と、つい口うるさく言ってしまう。そのときに、「就職活動で、大学で学んだことをアピールできるように勉強しなさい」と言ったりもします。でも、ちょっと言い過ぎていながら反省することもたまにあります。就職のために勉強する、それも大切なのですけれども、大学の学びというのは、それがもちろん全てではない、それは一部にしか過ぎないと思います。

思えば、私が大学生だったときは、もっと自由だったなと思います。私は、社会学や心理学、あるいは教育学が勉強できる学部に入ったのですけれども、入学したてのとき、友人が「この学部を選んだ時点で、就職のことは考えない」と言いました。「就職に結び付くとかじゃなくて、自分がやりたいことをここでやるんだ」と彼女は言ったわけです。私が大学に通っていた時代は、(就職氷河期であったとはいえ)「就職のため」とかを考える必要がそれほどありませんでした。だから、私を含め多くの友人は、「社会について知りたい」と純粋に考える気持ちが強かったように思います。難しい本を読んで、大学の友人と夜遅くまで議論した。それが今、私にとって、すごく懐かしい、よい思い出になっています。

大学での「自由」とは

さて、次のチャペルのテーマは「自由って何だろう?」です。最後に、大学と自由のことについて考えたいと思います。自由には、いろいろな意味があります。よく言われていることは、自由とは「強制がないこと」です。もちろん大学生である皆さんは単位を取らなければいけません。出席しなければいけない授業もあるでしょう。ただ、それさえこなせば、あれをしなさいとか、これをしなさいとか、あまり言われずに大学生生活を過ごすことができるでしょう。そういう意味で、大学とは、大学生とは自由だといえます。

一方、自由には他の意味もあります。それは、「自分の目的に従って何かを成すことができる」という意味での自由です。自分にとって価値のあることを成し遂げるためには手段が必要です。大学というのは、そういう手段を得ることができる場所だと、私は思っています。

皆さんは自由です。先ほども言ったように単位を取らなければいけないですが、どんな勉強をするか、大学で追求していくどんな問いを立てるのか、皆さんが自分自身で決められる部分がとても大きいです。皆さんの多くは、卒業後は就職して、企業などで働くようになるでしょう。そのときに、自分で自分の仕事を決められる人はほとんどいません。それに、大学には、耳が聞こえなかったり、目が見えなかったりという、いろいろなハンディキャップを持つ人がいます。そのようなハンディキャップを持つ人に対しても、学問する自由を、そのための手段を用意するのが大学の役割なのです。

ここ大学で、皆さんは、自分自身にとって

価値のある問いを発見し、それを追求することができます。私も大学に進学して初めて、自由に探求することの楽しさを知りました。大学では、自分が立てた問いを追求するための方法、先人たちが積み重ねてくれた知識、そして、一緒に思考して議論する仲間がいます。私は今でも、自分にとって価値がある問いと一緒に追求できる数多くの仲間恵まれています。それに、毎年、新しい人に出会います。学生さんたちと一緒に社会について考えることができることが、私の日々の大きな喜びです。

今日は私の考えをお話しましたが、皆さんも、自分にとって大学生生活が何かとい

うことを考えてほしいなと思います。今は必死で、自分が何を、何の目的のためにやっているのか、何が自分にとって価値があるのか、それをゆっくり考える時間がないかもしれません。それに、日々ニュースを見ているように、私たちの自由が脅かされていく現実があります。でもぜひ、自分は何から自由なのか、そして何を成す自由を持っているのか、それを考えてほしいなと思います。

以上で、私の話を終わります。どうもありがとうございました。

(社会学部准教授)